

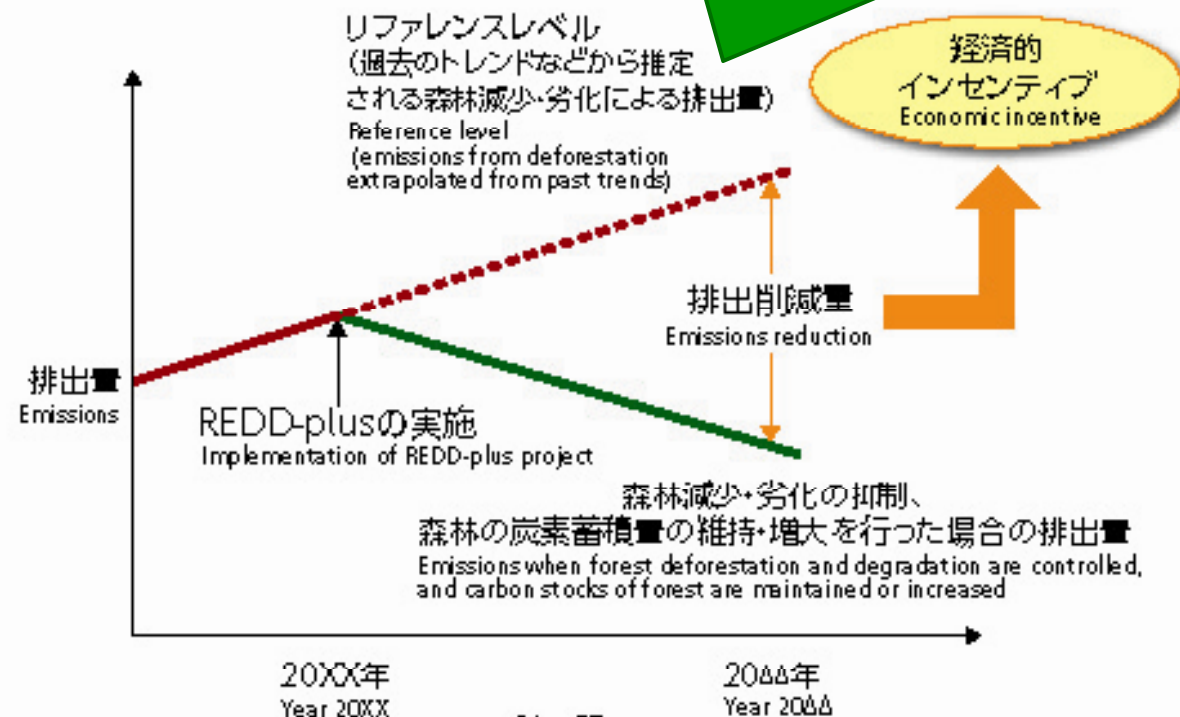
途上国の森林保全に寄与する
社会セーフガードに関するガイドラインの
作成・試行・普及



REDDプラス

Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries
(途上国の森林の減少・劣化に由来する排出の削減、持続可能な森林管理、森林炭素ストックの増強・拡大)

- 森林減少・劣化に由来する温室効果ガスの排出は人為的な温室効果ガス排出の2割
- 国連気候変動枠組条約において、新たな森林保全・管理の仕組みとして議論進む



『REDD-plus: 森林減少・劣化の抑制等による温室効果ガス排出量の削減—開発途上国における森林保全』国際協力機構(JICA)地球環境部/国際熱帯木材機関(ITTO), 2010



FPIC

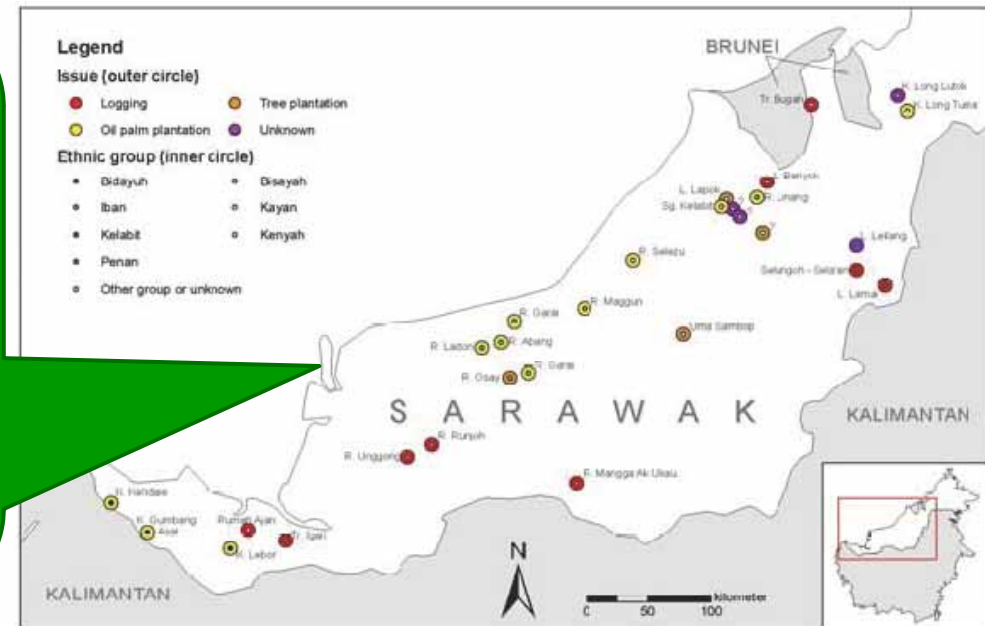
- FPICとは、 free, prior and informed consent; 自由で事前の情報に基づいた同意
- 事前に提供された十分な情報をもとに自らの意思に基づいて同意をするのでなければ、コミュニティが慣習的権利を主張している土地を開発すべきでないという考え方
- 先住民族の権利に関する国際連合宣言(2007年)には、FPICが示されている



これまでの森林開発と先住民族等の権利

先祖が植えた樹木など全て刈り取られ、焼かれ、今私たちの農地はなくなりました。私たちは「騙された」、「盗まれた」と感じている。我々の生活の保障はどこにあるのか？

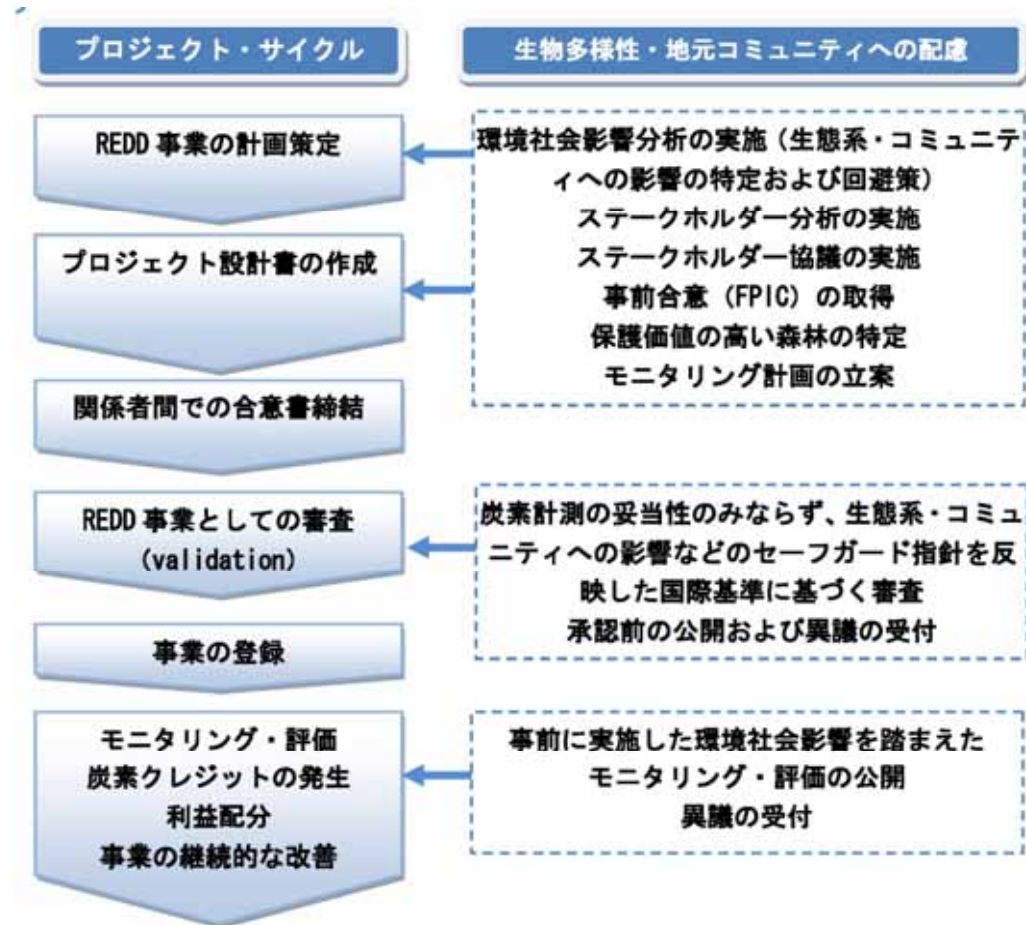
(センゴックさん：サラワク・ピントゥル付近のプロジェクト)



注)実際にはこの3倍の数の係争が生じている。現在、係争事例はサラワク全土で約150件にもおよぶ。

Marcus Colchester, Wee Aik Png, Wong Meng Chuo and Thomas Jalong (2007), "Land is Life: Land Rights and Oil Palm Development in Sarawak", Forest Peoples Programme and Perkumpulan Sawit Watch

REDD事業に求められるルール



地球・人間環境フォーラム「生物多様性・地域社会共存型の海外森林保全事業モデルの確立と炭素クレジット認証等への反映手法の検討実施可能性調査」(2010年3月)



提案の目的及び内容

途上国における森林減少・劣化の防止と気候変動緩和対策の適切な実施を推進し、民間企業を巻き込んだ日本の国際貢献として打ち出すことを目的に以下を実施する

- 1) 社会セーフガードに関するガイドラインの作成
- 2) 社会セーフガードに関するガイドラインの試行
- 3) 社会セーフガードに関するガイドラインの普及



政策実施の効果

- ガイドラインは、広く日本企業・組織の社会セーフガードに対する関心を喚起するものとなり得る。加えて、日本企業・組織が関与するREDD+プロジェクトが、地域コミュニティに与える影響に関して、負の影響を未然に防ぎ、プロジェクトの円滑な運営に寄与することが期待される。
- ガイドラインを日本語のみならず、英語及びサイト国の言語への翻訳を行うことにより、テストを実施したサイトの現地の関係者(地域コミュニティ、現地のプロジェクトパートナー、地方政府等)にガイドラインの内容が認識され、社会セーフガードの考え方が、広く認知されることが期待される。
- 地域住民の権利尊重とREDD+への参加が、ガイドラインの普及によって促進されることにより、REDD+プロジェクトが森林保全と温暖化の緩和を確実に達成する可能性が高まり、ひいてはその成功が日本からの国際貢献となることが期待される。



政策のアピールポイント & 課題

【アピール】

- 気候変動対策と生物多様性保全の同時達成への貢献
- コミュニティの権利尊重など生物多様性保全における社会的なアプローチは日本の得意ではない分野を強化し、国際貢献として打ち出すことができる

【課題】

- 実施には最低でも2-3年はかかる

